

飼育管理

家畜であるウシは、放牧であっても舎飼いでであっても適切に飼養管理を行わなくてはなりません。切手には、放牧牛の移動や見守り、水浴び、家畜品評会、家畜市場、仔牛への人工哺育、給餌といった作業のほか、ウシを慈しむ人々の姿を見ることができます。

モンゴル、オーストラリア、アメリカの切手には、ウマに乗ってウシを追う牧童（カウボーイ）が描かれています。ウマは体幅が狭いことから乗用に適しており、ウシよりも早く走ることができるため、広大な敷地に放牧されたウシを管理するにはうってつけの家畜です。ただし、オーストラリアから 1998 年に発行された切手の初日カバーには、モトクロスバイクでウシを追う牧童が見られるなど、時代の変化も読み取れます。また、オーストラリアとハンガリーの切手には、牧畜犬が描かれています。オーストラリアンキャトルドッグは、その名のとおり、牛群を追って管理する牧牛犬で、いうことを聞かないウシの踵^{かかと}をかるく噛み、驚かせてコントロールすることができます。ハンガリーの切手に描かれているのは、プーリーでしょうか。大型のコモンドールと共に古くからオオカミなどから家畜の群れを守ってきた護畜犬であり、ドレッドヘアーのような巻き毛が特徴です。ウシは、ハンガリー原産の乳肉役三用途兼用品種であるハンガリー草原牛でしょう。

また、2000 年に発行された日本の切手にウシは描かれていませんが、ウシの餌となる牧草ロールが点在する北海道の風景をここで紹介させていただきました。この牧草ロールは、乳用種であるホルスタインの冬季の餌になります。最近では、黒毛和種を舎飼いで飼育する農家も稲わらをロールにして保管するようになってきており、収穫後の水田に稲わらロールが点在する風景も見られるようになってきています。